

第 8 回 野菜需給協議会

1 日時：平成 21 年 11 月 9 日（月） 14:00～16:00

2 場所：農畜産業振興機構 北館 6 階 大会議室

3 議事概要

(1) 21 年夏秋野菜の需給・価格の状況について

ア) 事務局から、資料 1-1「21 年産夏秋野菜の需給・価格の実績について」により、前回の協議会に提示した 21 年産夏秋野菜の需要・価格の見通しと実績の比較及び要因を説明。

夏秋キャベツの入荷量について、主産県の生育は天候不順であったにもかかわらず順調に推移し前年を上回り、価格については著しく低価格で推移した前年を上回ったと説明した。

また、夏秋レタスは自主出荷調整があり一時的に入荷量が抑制されたが、9 月以降は入荷が回復し価格は前年を下回ったと説明した。

さらに、資料 1-2「野菜需給協議会幹事会（7 月・8 月）について」により 7 月 21 日の幹事会では、はくさいなどの価格の著しい低迷に対応し、野菜メニューの周知などの情報提供を行ったこと、8 月 11 日の幹事会では、たまねぎなどの価格高騰に対応して、農水省から全農に対し供給確保を依頼する文書の手交があった旨とともに事務局及び生産者団体から需給状況を説明した旨を報告。

イ) 全国農業協同組合連合会から、資料 1-3「平成 21 年夏期の野菜の状況と対応について」により価格低落時の対応としては、7 月下旬にはくさいの緊急需給調整を行い、土壌還元のほか学校給食の素材として提供したこと、また、高騰時の対応としては、農水省からの供給確保の要請を受け、北海道はじめ 18 道県に取組を要請した結果、9 月上旬出荷予定分を 8 月下旬に前倒出荷（ばれいしょ A 県）、規格外品比率を 4%から 6%に引き上げ（きゅうり B 県）、通常、ML サイズ中心の出荷だが、S サイズの比率を高めて対応（トマト C 県）などの取組事例を報告、合わせて消費拡大に関し、はくさい（長野県産）で集中店頭宣伝を実施し、キャベツ（群馬県産）は無償配布を行ったことも報告。

ウ) 事務局から、資料 1-4「最近の野菜の輸入動向について」により、全体動向として過去 5 年平均は下回っているものの本年に入ってから前年を超える月もあり増加傾向となっていること、特に、生鮮たまねぎに関しては前年に比べて 8 月は 4 千トン、9 月は 6 千トン増加となり、輸入相手国としては中国が 8 割強を占めていること、冷凍野菜については数量の変動がなく、固定した需要があるものと見られていると報告。

エ) 各委員のコメント

- ・この夏の高騰時には大放売セールを開催した。従来は消費者になかなか理解してもらえなかった規格外品の人気は意外と高く、一部の企業からは今後も提供してほしいとの要望あった。
【チェーンストア協会】
- ・売り場では、特にきのこ類（なめこ除く）や単価の安いもやしの人気が高く、ばれいしょ、たまねぎに関してはバラ売りが中心となった。【チェーンストア協会】
- ・お客様の懐は冷え切っているようで、「必要な物を必要な時に必要な量だけ」という傾向が強まっている。鍋需要に期待しつつ、消費拡大に努めたい。【チェーンストア協会】
- ・輸入冷凍食品は多いようだが、今年が特別に多かったのか。外食産業に多く出回っていると聞くがそれはどうなのか。【消費科学連合会】
- ・給食産業はどうしても低価格で抑えなくてはいけない業界である。一食あたり400円から500円相場の契約で運営している中で、国産原料を使うと価格が3割増しになってしまうことからどうしても輸入物に頼るほかないのが現状。業界内での輸入品の使用量にそれほど大きな変化はない。【日本給食サービス協会】
- ・輸入冷凍野菜は安定している。一昨年、中国野菜の薬物混入問題以来、国産野菜を使った冷凍食品への要望が増えている。しかし、昨年のリーマンショック以降、ブレーキがかかっている。【全農】
- ・米国には不当廉売関税という特殊関税制度があり、国内向けよりも安い価格で輸出される中国産のニンニクに対して割増関税を課していると聞いている。日本向けに輸出されている農産物で、国内向けよりも安い価格で輸出されているものがないか、調査をご検討いただけないかと考えている。【全中】

(2) 今夏の異常気象の分析

(株)ウェザーマップ気象予報士江花氏から、資料2「今夏の異常気象の分析」により2009年6月から8月の天候の特徴としては、日照時間の少なかったこと及び北日本と西日本における多雨、沖縄・奄美地方の高温が挙げられること、来年1月にかけての天気傾向としては冬型が続かず高温傾向であり、また東日本、北日本では降水量が少なく春先の水不足が心配される旨説明。

また、エルニーニョは周期的に発生するものなのかとの委員からの質問に対し、ウェザーマップより、大きなものは10年に1回程度の頻度で発生し、一度発生すると1年から1年半続くこと、今夏に関しては変化が急であったことが問題であり、春先にエルニーニョになることはわかっていたが、急変するとは予測しておらず、6月頃の予報では暑い夏になると予報したが、7月に一変し冷夏となったことを説明。

(3) 21年産秋冬野菜の需給・価格の見通し

- ア) 事務局より、資料3-1「21年産秋冬野菜の需給・価格の見通し(概要)」及び資料3-2「21年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて-第5回野菜需給・価格情報委員会(10月29日開催)より-」に基づき、冬キャベツ・秋冬だいこん・秋冬はくさい・たまねぎの需給・価格の見通し、あわせて冬レタス・秋冬にんじんの需給・価格の動向についてたまねぎは

夏場の天候不順により、生育不良であり、出荷は大きく前年を下回る見込みであることから、その他の野菜については、年内は生育が順調であるため、出荷は前年並又は前年を上回る見込みであり、年明け以降はキャベツ・だいこん・はくさいは、台風18号の影響により、不作であった前年並の出荷になる懸念があるが、にんじん、レタスについては生育順調であり、前年を超える出荷が見込まれることを説明。

- イ) 全国農業協同組合連合会から、資料3-3「21年産秋冬野菜の生産・出荷増強について」により秋冬野菜の作付面積・出荷計画の概要を説明。続いて、ホクレン、全農茨城県本部、全農千葉県本部、愛知県経済連、香川県農協からたまねぎ、秋冬はくさい、秋冬だいこん、冬にんじん、冬キャベツ、冬レタスの生産出荷状況を説明。
- ・冬キャベツに関しては、特に愛知県の台風18号による被害が心配される。千葉県産、神奈川県産が多い年内は前年を上回る出荷が見込まれるが、年明け以降は愛知県産のウェイトが高まるので少なかった前年並みの出荷が見込まれる。【全農】
 - ・秋冬だいこんに関しては、全体として平年及び前年並みが見込まれるが、年明け出荷分に関しては千葉県における台風18号の被害や露地の作型が増えたことから出荷減が心配される。【全農】
 - ・秋冬はくさいに関しては、生育順調で年内は平年並みが見込まれるが、茨城県、愛知県の年明け出荷分に関しては台風18号の影響で出荷量の減少が心配される。【全農】
 - ・たまねぎに関しては、不作が確定しており、全体として数量は少なめ。【全農】
 - ・冬レタスに関しては、生育は概ね順調だが、年明け以降の出荷に関しては全体に前進化がみられるので前年並みの出荷になる可能性もある。【全農】
 - ・たまねぎについては、作付面積は前年並み。生育期の7月の天候不順（多雨）の影響で全道的に湿害が散見され21年産の収量は過去5年平均を下回り、前年、平年を大きく下回る見込み。特に中晩生に被害が大きく、例年よりも小玉傾向で数量も減少の見込み。また、貯蔵ものは湿害による腐れなどが懸念される。加工・業務向けユーザーのニーズが高いため、早期から計画的な出荷に努めるなど安定供給に向けて対策を行っている。【ホクレン】
 - ・11月上旬に早生が終了し、中生の時期に入ったが台風の影響で生育が進まず出荷遅れ気味。年内出荷は順調だが、1月以降台風の影響で小玉傾向となり前年数字を割り込む見込み。【全農茨城県本部】
 - ・量販店でのPRを実施予定。マネキンを使い、のべ20日間販促を実施。また、はくさいの無料配布をつくばエクスプレスのつくば駅、秋葉原駅などで実施するとともに、TBSラジオでのCMを計画している。【全農茨城県本部】
 - ・だいこんの作付けは、トンネル物は微減で露地物は微増傾向。キャベツへの移行もあることから、若干、作付面積は減少する見込みだがおおむね前年及び平年並み。台風18号の影響で年明けの出荷については遅れが懸念される。【全農千葉県本部】
 - ・にんじんに関しては、産地が内陸であったこともあり台風の影響もなく生育は順調。作付面積は、地域によってばらつきがあるがおおむね前年並みで出荷量は少なかった前年を上回る見込み。【全農千葉県本部】

- ・11月13日に大田市場で秋冬野菜のPRを実施。千葉県産フェアなどを通じ消費拡大に努める。【全農千葉県本部】
 - ・キャベツについては、作付面積が増えているにもかかわらず出荷見通しは前年並みということで台風18号の被害の大きさを物語っている。【愛知県経済連】
- ・年内出荷に関しては作付面積も増え、生育が順調であるが台風18号の被害で小玉傾向となっている。【愛知県経済連】
- ・年明け出荷については、台風により定植間もない苗が流されたり、塩害等にあつたため出荷量は減少する見込み。【愛知県経済連】
- ・作型については、昨年に比べて冬系を増やしており、冬系6割、春系4割という構成比になっている。【愛知県経済連】
- ・レタスについては、作付面積の前年比98%に対して出荷見通しは対前年比107%と好調な作柄を物語る数字となっている。2L、Lを中心に秀品の割合が7割となっており潤沢な出荷を見込んでいる。【香川県農協】
- ・販売促進に関しては、系統を中心に事前商談を実施し、通いコンテナなどを使った特売計画を立てている。【香川県農協】
- ・香川県におけるレタス生産開始から50周年となるのでイベント等仕組む予定。【香川県農協】

ウ) 各委員のコメント

- ・価格高騰時の対策として規格外品を出していただいてありがたく思っている。今後も多くの産地で規格外を出荷していただきたい。【消費科学連合会】
- ・人数が少ない家庭や高齢の世帯では「ばら売り」や「カット」の要望が増えているが、効率の面で量販店では導入しにくいと伺った。一方で、都会の市場や直売所では「ばら売り」が増えていると聞いている。【主婦連合会】
- ・冷凍食品でも1人前ずつ小分けになったものもあり、今後は使いやすい販売形態で提供することも広めていただきたいと考えている。【主婦連合会】

(4) 野菜関係の取組について

各委員から「資料4 野菜の消費拡大の取組について」により実績及び今後の計画について説明。

【全農】

- ・5月5日に子供を対象としたJA全農チビリンピック2009を開催し、会場において試食宣伝、8月2日にキャベツの無償配布、8月29日に開催したららぽーとTOKYO BAYをはじめとする「やさいの日」の全国一斉取組などファミリー層向けの活動を行った。
- ・今後の予定としては、NPOが実施する小学校の食育出前授業に対する協力や大学生向けの特別授業として、筑波大学においてセミナーを企画。
また、学食での鍋メニューの提供や実習なども計画（東京農業大学他）。

【日本栄養士会】

- ・野菜の日である8月31日に「野菜の機能性と生活習慣病予防」をテーマとした「野菜を食べようーメタボ撲滅ーシンポジウム」を開催、台風の直撃があったにもかかわらず多数の来場があった。

来場者のアンケート結果では、サプリメントの過剰摂取に気をつけ、野菜をもっと食べていきたいという感想が寄せられ、今後も参加者の意識改革に役に立つ情報提供をしていきたい。

【青果物健康推進協会】

- ・農水省の「鍋ほかプロジェクト 2009」に協力し首都圏の大学生に鍋をPRするとともに小学校での授業を通して食育を普及。
- ・今後は企業の健康管理部門と協力し野菜摂取に積極的に取り組む企業の事例などを発表する研修会を開催する予定。
- ・野菜の産地廃棄を予防する目的で Emergency Vegetables Support Team を発足させ、2年以内に1000人規模までメンバーを増やし、供給過剰時のレシピ提案などをwebを通じて情報発信していく計画。

【ファイブ・ア・デイ協会】

- ・量販店を中心として87企業の協力を得て、小学生を対象に食育体験学習を総合学習の授業の一環として実施。あわせて、家庭での野菜摂取の実態を調査、3月に結果報告の予定。
- ・7社の従業員食堂において給食事業者と連携して健康相談デーを実施。男性の多い企業、女性が多い職場など属性別に分析して調査を実施中。

【農林水産省】

- ・農林水産省では10月から3月にかけて「鍋ほか推進プロジェクト 2009」を実施中。鍋料理は一人当たり200から250グラムの野菜を消費できるという調査結果も出ており効果的に野菜を摂取できるメニューであると考えられる。
- ・今年度は参加企業の協力を得て「鍋ほかソング」も作成。
- ・HPから自由にダウンロードできるので売り場などで流していただき、統一マークとともに販促に活用願いたい。

座長より本日の議論を踏まえ、野菜の需給状況の周知や消費拡大に努めていくよう関係者の方々にも取り組みをお願いする旨の発言があり、また、事務局より、次回の協議会については春野菜の生産出荷状況についての動向がある程度判明する3月中旬ころに開催する予定と説明し、閉会となった。